

	各社の考え方
<p>□ 算定を行う背景・目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「印刷」を核に、創業来より環境事業に積極的に取り組む中、当社独自の「エココミュニケーション」を提唱し、その活動の一環として、2011年より製品のLCAの取り組みをスタート。その中でも、CFPに積極関与し、お客様から高いご評価を得たことが大きな契機となり、製品の環境負荷低減や、GHGプロトコルによる組織のLCAに範囲を広げて取り組むこととした。</li> <li>● SCOPE3算定の取り組みは、CDPヘレポーティング義務のない当社にとって、義務感で算定に取り組んできた訳ではなく、将来的に、当社独自の取り組みを見出すこと、そして、社会的な視点からはもちろんのこと、また、新たにビジネスにもたらすインパクトに繋がる要素と考え、積極開示することとした。新たに社の取り組む方向性を導けると考え、算定取り組みに踏み切った。</li> <li>● 今年、これまでの取り組み等が評価され、日本LCAフォーラム表彰で奨励賞を頂くことができた。</li> <li>● まだまだ、PR不足は否めないが、今後も継続して取り組みをすすめたい。</li> </ul>
<p>□ 算定結果の活用方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 算定結果の情報は、当社統合レポート、ならびに当社HP掲載を通じて、ステークホルダーへの公開を行うことで様々な要求に活用。</li> <li>● 更なる環境関連問題への取り組みを強化することで、競合他社との差別化を図る。</li> <li>● ビジネス上、今後多様な状況が起こりうることを想定の上、開示要求に対応する。</li> </ul>
<p>□ 算定のメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全体の活動量としての物量や金額データを収集することで、個品で偏りなどをなくした数値と見ることができるため、製品負荷を紹介する際、より根拠をもった提案要求に対応可能。</li> <li>● 負荷の多い部分と、少ない部分を比較することで、費用対削減効果が見出せるよう、コスト削減と、将来において経年比較からの分析を行うことで方向性を見出せる。</li> </ul>
<p>□ 社内の算定体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 算定プロセス全般に関わることを、IR/CSR企画推進室にてグリップ。</li> <li>● カテゴリー1は購買部、2,6は経理部、7は総務部、その他については、品質保証室(ISO推進担当、環境推進担当)よりデータ収集した。</li> </ul>

	各社の考え方
<p>□ サプライチェーン排出量の削減に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今回から全15カテゴリーにわたり、算定を行ったが、全体の約70%がカテゴリー1に属していることがあらためて明確になった。</li> <li>● カテゴリー1の中でも用紙が占める割合は、95%ともっとも多く、用紙に対する環境配慮が、重要であることがわかった。</li> <li>● 用紙の環境負荷軽減のため、これまでのFSC認証紙のほか、岐阜県の間伐材を使い、岐阜県の製紙会社で抄造し、岐阜県の印刷会社である当社で、印刷加工する「間伐材ペーパー」を開発した。</li> <li>● 岐阜県の森から作られるカーボンオフセットクレジットを利用した岐阜モデルの構築を視野に入れて取り組みを加速させたい。</li> </ul>
<p>□ サプライチェーン排出量算定の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現状、カテゴリー1の数値はサプライヤーからデータ収集することが困難なため、原単位を活用しての算定とした。しかし、用紙の原単位は一項目しかないため、環境配慮製品を使用しても数値に反映されない。よって用紙における環境配慮をPRするには弱い部位がある。</li> <li>● カテゴリー4は、広域から資材調達を行っているため、CFPコミュニケーションプログラムの水なし印刷PCRのシナリオを採用。但し、解釈によっては実際よりも移動距離が多く出ているとも想定され、今後はより算定精度を高めたい。</li> <li>● 外部委託(協力会社など)のデータは、データ収集が困難なことから、今回の算定には含まれてはいない。今後、当社側にて原単位を設定し、より精度を高めていくことを検討。</li> </ul>
<p>□ その他(任意)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 昨年よりも網羅性を高めるため、今回からカテゴリー15を算定範囲に含めることとした。</li> </ul>

## 3

## サンメッセ株式会社

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 主要原材料・資材の調達量(重量、金額)	● 原単位DB※
カテゴリ2「資本財」	● 資本財の調達金額	● 原単位DB※
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 燃料・電気・ガスのエネルギー使用量	● CFP基本・利用可能DB ● 原単位DB※
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 調達・委託・廃棄の各段階輸送をCFPコミュニケーションプログラムの水なし印刷による印刷物PCRのシナリオを参考に推定トンキロを算定	● CFP基本・利用可能DB ● 燃料あたり原単位
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別排出量	● 原単位DB※
カテゴリ6「出張」	● 旅費・交通費支給額	● 原単位DB※
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 交通費支給額	● 原単位DB※
カテゴリ8「リース資産(上流)」	● 非該当	
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● 調達・委託・廃棄の各段階輸送をCFPコミュニケーションプログラムの水なし印刷による印刷物PCRのシナリオを参考に推定トンキロを算定	● CFP基本・利用可能DB ● 燃料あたり原単位
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 販売した製品のほとんどは完成品であるため、その後の加工はなしと考える。	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 紙製品の使用時の排出は0と考える。	
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● CFPコミュニケーションプログラムの水なし印刷による印刷物PCRのシナリオにもとづき、廃棄物量を算定	● CFP基本・利用可能DB
カテゴリ13「リース資産(下流)」	● 非該当	
カテゴリ14「フランチャイズ」		
カテゴリ15「投資」	● 各社のCSRレポートよりSCOPE1-2分を有価証券保有割合にもとに割戻し	
「その他」	●	●

## 算定結果

### サンメッセのSCOPE3

